「アフターコロナの橋本のまちづくり」

Q.秋本議員：新型コロナウイルスによる、今後のまちづくりの変革への対応が必要と考えます。

三菱地所が一都三県在住の約15000人のオフィスワーカーに実施した「ポストコロナ時代のまちづくり」に関するアンケートでは、６０％以上の人が、サテライトオフィスやコワーキングスペースなど本来とは別の仕事場を望んでおり、その場所も半分以上の人が「最寄りの駅近か」と答えています。

　また、国土交通省が「新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性」について実施した、様々な分野の有識者へのヒアリングでは「ニューノーマル」に対応したまちづくりの方向性が整理されており、東京一極集中の是正が進みやすくなる可能性から「職住近接のまちづくり」や「地元生活圏を重視する傾向」など、橋本駅周辺の

まちづくりに参考になる意見もまとめられています。

様々な分野でこの変革に対応した動きが見られます。コロナの影響で明かに人々の価値観が変化し、都心一極集中の「土地利用」から、一部の機能は「地方へ分散へ」と潮目は変わっており、行動様式・意識など多方面に影響しています。このような中、アフターコロナを見据え、橋本駅周辺のまちづくりにどのように取り組むのか市の見解を伺います。

A.市答弁：新型コロナウイルスが社会に及ぼした影響や収束後の社会情勢の変化を可能な限り見通した中で、市民や企業のニーズを適切に捉え、今後のまちづくりの在り方を検討してまいります。

［要望］秋本議員：都心の会社を誘致する自治体の動きもある中、リニア新駅が設置され、スーパーメガリージョンの一翼を担うというポテンシャルの高さを持つ本市は、いち早くこの流れをくみとることがコロナのマイナスをプラスに変え発展するチャンス。今後、自治体間の競争に勝てるまちづくりを進めるよう要望します。

また、関連道路の都市計画決定に向けて、地域住民への丁寧かつきめ細かい説明と共に、橋本駅南口駅前広場の一般車乗降場の拡充を要望します。